

日本人の余暇を巡る環境

余暇を過ごすための重要な要素として時間環境があります。厚生労働省の「毎月勤労統計調査」「就労条件総合調査」をもとに労働時間、休日・休暇の取得状況を見てみると、2012年の年間総労働時間(事業所規模 30 名以上)では 1808 時間となり、前年に比べ 20 時間増加しています。1800 時間を超えたのは 2008 年以来です。

所定内労働時間は 1662 時間で、前年より 17 時間増加し、所定外労働時間は 146 時間でこちらも前年に比べ 3 時間の増加となっています。

労働時間は 2008 年 9 月のリーマンショックに象徴される世界的な景気後退で 2009 年には大きく後退してきていますが、その後は徐々に増加傾向になっています。パートタイマー比率も上昇傾向を続けて 24%を超えています。

余暇市場 64 兆 7272 億円でほぼ横ばい

白書によれば、昨年の余暇市場は 64 兆 7272 億円(前年比 0.3%減)と 5 年連続のマイナスで、同時期の国民総支出は前年比 1.1%の増加、民間最終支出は前年比 1.7%増加しているにもかかわらず、余暇市場は伸びていないのが現状です。

東日本大震災の影響で、ほとんどの分野が売り上げを減らした前年に対して、通常稼働に戻ってプラスに戻った分野もありますが、一昨年比で見ると伸びていないのが分かります。これは震災以外の要因が大きく作用して大幅に減少した分野があるからです。しかし、その中でも観光・行楽部門の好調さが目立っているのも 2012 年度の特徴でもあります。

スポーツ部門市場規模は 3 兆 9150 億円(前年比 0.6%増)は 5 年ぶりの増加で、用品市場の回復基調が明確になってきています。特にランニング用品、登山・キャンプ用品が堅調で買い替え・買い増し需要が伸びています。

スポーツサプリメント市場も拡大していますが、テニスクラブ・スクールとスキー場は前年比では伸びているものの一昨年比では減少しています。

ゴルフ用品 30 億円増、7 年ぶりのプラス

ゴルフコース:

- 参加人口は 790 万人(前年は 800 万人、10 万人減)
- 参加率は 7.8%(前年も 7.8%)
- 年間活動回数は 13.3 回(前年 14.1 回、0.8 回減)
- 年間平均費用・・・
 - ★用具など: ¥79, 200(前年 ¥69, 000、¥10, 200増)
 - ★会費など: ¥94, 100(前年 ¥99, 500、¥540減)
 - ★1 回あたりの費用: ¥13, 020(前年 ¥11, 960、¥1, 060増)
- 参加希望率: 10.6%(前年 11.2%、0.6%減)

ゴルフ練習場

- 参加人口は 840 万人(前年は 920 万人、80 万人減)
- 参加率は 8.2%(前年は 9.0%、0.8%減)
- 年間活動回数は 17.5 回(前年は 18.9 回、1.4 回減)
- 年間平均費用・・・
 - ★会費など: ¥26, 800(前年は ¥22, 200、¥4,600 増)
 - ★1 回あたりの費用: ¥1, 530(前年は ¥1, 170、¥360 増)
- 参加希望率は 9. 2%(前年は 10. 2%、1%減)

ゴルフ場は 9110 億円(前年比 1.2%減)でプレイ単価の落ち込みが大きく影響しています。昨年ゴルフ場でプレイした人の割合(参加率)は 7. 8%で前年と同率であることから、推計すると 10 万人少ない 790 万人がゴルフ人口という計算になります。しかし、集計上の問題が見えてきます。それは年代別の男女参加率をみるとコア層とみられる 60 歳代男性が 17.0%、50 歳代でも 14.0%と明らかに低く、インターネットに偏った調査方法に問題があるからです。(高齢者ほどインターネットを利用する人が少ないからです)

年間の平均プレイ回数は 13.3 回と前回の 14.1 回より約 1 回減っています。そして、ゴルフ場にかかる年間平均費用は ¥173, 200 で前年比 ¥4, 700 増加しており、用具代を除いた実質プレイ代は ¥94, 100 で前年より ¥5, 400 減少しています。

練習場は、施設数の減少により前年比 1. 5%減の 1340 億円で閉鎖施設の減少傾向が続く中で、新設の大半はインドア施設であり、こちらは大きな増加傾向を示していることから、売上、利用者数共に減少は小幅でとどまっているのが現状です。

参加人口は 840 万人で前年より 80 万人の減で、年間平均活動回数は 17.5 回(前年より 1.4 回減)と前年をいずれも下回ったものの、年間平均費用は ¥26, 800 で前年より ¥4, 600 増えています。

ゴルフ用品市場

売り上げは 7 年ぶりにプラスとなり、2012 年度は 3370 億円となり前年比で 30 億円の増加となっています。これは中心顧客である高齢者向けの高額クラブの動きが活発化、急速に普及し始めた簡易シャフト着脱可能装置を組み込んだドライバーの新製品が寄与したためと見られています。

止めた活動の 1 位はゴルフ

白書の巻末では「余暇活性化の道筋」と題した特集を組んでいます。その中で、最近 5 年以内に止めた活動上位 10 種目に「ゴルフ(コースでのプレイ)」が 70 歳男性で 1 位、60 代・50 代男性で 3 位となっています。(実際にはインターネットによる調査のためもっと多いと見ます)

その理由として「一緒に参加する仲間がいなくなった」「費用が負担できなくなった」が多く出ていま

した。

また、余暇活動を開始した年代割合ではゴルフは 20 歳台からに対し、サッカーは 10～14 歳、野球・キャッチボールは 5～9 歳に比べて高年齢化が特徴的です。

ゴルフ人口に歯止めをかけ、市場を活性化するには、ゴルフにおけるコミュニティ作りとジュニア育成が急務となっており、レジャー白書はそのことを裏付けています。

* 資料提供 JGGA ニュース 10 月号より